

平成29年第11回

幸手市教育委員会定例会会議録

招 集 期 日	平成29年11月13日（月）午前9時30分					
開 会 場 所	図書館香日向分館					
開会の日時・宣告者	平成29年11月13日（月）午前9時30分			山西 実		
閉会の日時・宣告者	平成29年11月13日（月）午後0時00分			山西 実		
出席 状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	教 育 長	山 西 実	出席	教育委員	前 田 一 郎	出席
	職務代理者	中 根 政 美	出席	教育委員	満 木 信 吉	出席
	教育委員	尾 島 紗 緒 里	出席	教育委員	齊 藤 一 夫	出席
				書記：木村 博・大越 歩美		
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 次 長	小 森 谷 進				
	総 務 課 長	関 根 一 勝				
	学校教育課長	森 祥 一				
	スポーツ振興課長	関 根 智 裕				
	吉田幼稚園長	藤 沼 光 市				
	社会教育課主席主幹	原 太 平				

会議事件名	顛末
<p>開 会 午前 9 時 30 分</p> <p>日程第 1 図書館香日向分館 の運営状況等について</p>	<p>教育長 開会を宣する。</p> <p>図書館長 図書館香日向分館の運営状況等について、資料により説明する。</p> <p>《質疑》</p> <p>満木委員 クイズラリーは素晴らしい催しだと思う。疑問を持って、知りたいと思って本を読むのは良いことだ。幼児期が活字を好きになるかどうかの分岐点だと思うため、浴びるように活字を読んでいただきたい。その役割の一部を図書館で行っていただきたい。</p> <p>教育長 クイズラリーは全て正解してから景品をもらって帰るのか。</p> <p>図書館長 そのとおりである。全て回答でき正解するまで行ってもらう。</p> <p>齋藤委員 毎年利用者数が増加しているというのは素晴らしい。図書館資料を借りる人の範囲というのは変化してきているのか。</p> <p>図書館長 若年者の割合も高齢者の割合も増加している。利用カードを作成する方の割合も高齢者の方が増えてきており、幅広く利用されている。</p> <p>齋藤委員 本館に近い地域の住民の中にも分館を利用している方が多いと聞く。分館利用者の地域は広がっているのか。</p> <p>図書館長 香日向分館は新しい本が多く所蔵しており、久喜市にも近いいため、久喜市民の利用も多い。そのため、利用者の地域的範囲は広がっている。以前は杉戸や宮代の図書館を利用して来た幸手市民も戻ってきてつつある。</p> <p>教育長</p>

図書館の広域利用範囲はどうなっているのか。

図書館長

幸手、杉戸、宮代、久喜、白岡等である。

前田委員

リクエストの件数を見ても伸びているということはそれだけ支持されているということなのではないかと思う。

図書館サービス指標の人口一人あたりの貸出冊数に関して、図書館長は5冊を目標にしているとおっしゃっていたが、他地域の貸出冊数が高い図書館はどのくらい貸し出しているのか。

図書館長

埼玉県が発表している統計を参考にすると、多いところで10冊を超えており、少ないところでは2冊を下回っている。幸手は中間くらいであると考えます。

前田委員

図書館長が考える理想の図書館とはなにかあるか。

図書館長

安全である図書館である。安全に楽しく、子供たちが本を読みに来ることができ、また、なにかあったときに図書館に飛び込めば守ることができる図書館が理想である。

尾島委員

とても新しくきれいで良い施設であると感じる。しかし、談話室の壁に今は掲示物が少なく殺風景に感じるためなにか掲示したほうが良いのではと思う。普段は壁に掲示等はされているのか。

図書館長

談話室には、子供たちが遊べるスペースやお話し会をする場所を用意することもあり、ポスター等の掲示を行っている。その時のイベントや利用者に合わせたレイアウトを行っている。

中根職務代理者

質問が二つある。1つ目は、毎日本館から2名ずつ分館の方に職員を派遣しているようだが、その派遣職員は司書資格を有しているのか。2つ目は、幸手市の人口に比べて図書館カード登録数が多いが、それは市外の登録者の数も含まれているからなのか、また、新規に500人ほど登録しているが、これは新しく小学校に入学した児童がまとめて登録したということでのよいのか。

	<p>図書館長</p> <p>スタッフは全 14 名いるが、その内有資格者は 9 名である。香日向分館には必ず有資格者 1 名は派遣するようにしている。登録者については、市外の登録者も含まれている。従来は、4 か月検診時に絵本をプレゼントする際に利用カードも作成していたが、昨年度からは廃止している。そのため、登録者数は減少している。</p>
<p><b>日程第 2</b> <b>前回会議録の承認</b></p>	<p>教育長</p> <p>前回会議録の内容について質問を求める。</p> <p>《<b>質疑</b>》 質疑なし。</p> <p>《<b>承認</b>》 全員異議なく承認。</p>
<p><b>日程第 3</b> <b>協議事項</b> 幸手市立吉田幼稚園の 今後の方向性について</p>	<p>総務課長</p> <p>幸手市立吉田幼稚園の今後の方向性について、資料を基に説明する。</p> <p>《<b>質疑</b>》</p> <p>前田委員</p> <p>今後の議事の流れについてだが、審議会からの答申について教育委員会で協議を行って意見を出し、その意見を踏まえた別の案を作成し、それを市長に提出するということがよいのか。</p> <p>総務課長</p> <p>教育委員会としての方向性を改めて検討していただきたいということである。検討の結果、教育委員会としての意見を含めて、方向性がある程度まとまった時点で、議案として提出し、議決をいただきたいと思っている。</p> <p>前田委員</p> <p>教育委員会定例会で今月・来月協議を行い、年明けに議決に持っていければということによいのか。</p> <p>総務課長</p> <p>これからの協議次第になると思うが、今月・来月に意見をいただき、1 月の定例会で報告書の内容についての議決を考えている。</p> <p>協議の進捗状況によって、議決および報告書提出の時期は</p>

変わってくる。

教育長

協議内容について教育委員全体での一定の結論を得てから市長に報告となる。協議に十分な時間が必要であるといった場合は次回に持ち越しになる。一層の熟議をお願いしたい。

最終的に、例えば存続するかそれとも廃園させるかということについては、設置者である市長が教育委員会の報告を受けて決断することになる。

満木委員

意思決定をしないといけないと考える。まずは、教育委員会として存続か廃園かを決めてから、条件設定をしていくべきである。

教育長

今までの教育委員会での協議や答申等を踏まえて協議したい。

満木委員

条件面から議論をつめていこうとすると、8回9回の回になってしまう。そのため、結論を決めてから条件面を詰めていく方法をとっていただきたい。

齋藤委員

個人としては、公立幼稚園はあった方が良くと思うが、行政の財政問題を考えると廃園もやむを得ないと思う。

中根職務代理者

同じ議論を繰り返してはならないと思うため、満木委員のいう通り、結論を決めてから議論した方がいいと思う。

尾島委員

結論を決めてからというのは受け入れがたい。これほど長い答申案が提出されたということ踏まえると、もう少し慎重に進めるべきではないかと考える。教育審議会も短かったのではないか。そのため、今この場で結論を決めるのは納得ができない。

満木委員

吉田地区保護者に対するアンケートで出た問題点と、審議会が出た問題点はほとんど一致していた。その問題点一つひとつ議論し、その結果廃園やむなしという意見が多数あった。そのような審議過程を教育委員会は踏まえて意思決定することが大切だと思う。回を重ねても結論が出ないというこ

とは問題である。教育委員会で結論を出さなければいけない。

総務課長

審議会からは、審議会委員が答申を出したから廃園にしたというのは避けていただきたいという思いが感じられた。教育委員会でしっかりとした決定をしていただきたいというのが審議会委員の考えではないか。

満木委員

吉田幼稚園の教育が素晴らしいのは全ての人が認めており、それを存続させるのには3点の問題点がある。経費、少人数、私立幼稚園の代替案があるかである。個人の意見としては、このような点を考慮した際、廃園はやむを得ないと考える。

中根職務代理者

今、この場では結論を出す必要はないと考える。今回は協議ということでいろんな意見を出す。議決は次回以降にしたい。

満木委員

協議をすることはよいと思う。

齋藤委員

結論は次回以降にしたほうがよいと考える。この場で結論を決めても、議会等に説明するとき承認が得られるように説明できない。

中根職務代理者

しっかりと、答申に目を通させていただく。次回以降に結論の部分を出していった方がよいのではないか。

いくつか、答申に関して質問がある。まず、現状の園児数を改善させるために、教育委員会はどのような努力をしたのか。2つ目は、税負担について、国からの私立幼稚園就園奨励費補助金も税金かもしれないが、やはり吉田幼稚園に対する一般会計からの支出は大きい。その点についているはどのように考えるのか。最後は、答申案の文言についてだが、「障害をもつ」を「障害のある」に変えることはできないだろうかというものである、ぜひ、精査していただきたい。

総務課長

まず、どのような努力をしたのかについてだが、吉田幼稚園の通園区域は、原則、吉田・八代・権現堂川地区の3地区という制約があり、難しかったというのもある。今までは3

地区にのみ園児募集のチラシを広報紙に折り込みで配布していたが、それを広報紙に直接掲載することによって、市全域に知らせるよう変更した。また、他の私立幼稚園の園児募集時期との兼ね合いから、近年は10月号に掲載するようにした。できる範囲で行ってきたが、市民の目に見える形での努力はできていなかったかもしれない。2点目についてだが、確かに審議会内でも国税について触れるべきとの意見があったが、吉田幼稚園は市立なのでそのような意味では、一般会計を圧迫している面もある。県内他自治体でも私立幼稚園に移行しているところが多い。経費負担や少子化の問題もあることから、幸手市でも考えていく必要がある。3点目は、審議会長、副会長に相談したい。

満木委員

一人当たりの児童に対する経費が私立幼稚園と比べて6.6倍かかっているというのは、多くの市民が納得できないと思う。その点に関して、教育委員会で考えていただきたい。

また、吉田幼稚園には約6,000万円の経費がかかっているがその経費を他の事業、例えば学力向上等に回せないかということや廃園後の障害児への対応も、結論を決めてからならば、議論することができる。結論を先に決めることが、条件面を詰めるための議論をする条件ではないか。

前田委員

次回に結論を出すことが良いと考える。今まで吉田幼稚園が、障害がある児童を受け入れていたことは感謝すべきだし、今後、もし廃園になった場合どうするかを考える必要がある。6,000万円を学力向上に回すという意見があったが、一般受けする政策、例えば給食費を無料にするといった方法もある。これらを踏まえて、次回、結論を出す必要があると考える。

尾島委員

方向性を次回決めてから議論するのはかまわないが、教育委員会が廃園の方向に進めていく中に一人でも存続の意見をもつ委員がいてもよいのかというのが疑問である。審議会の意見は尊重しているが、その中でも少数派の存続意見に寄っている。もう少し、市として吉田幼稚園と真剣に向き合うべきではないか。魅力を生かせる、目に見えた努力というのがなさすぎるのではないか。保護者は目に見えた形でしか判断できない。目に見える形で行われれば評価はされる。個人

	<p>的には、存続という少数意見に同意している。</p> <p>満木委員</p> <p>反対意見がでるのは当然である。審議会では、これから教育委員会で議論していく上での要点を整理していただいた。答申をしっかり読ませていただき、次回の定例会で結論を出していくことに賛成である。</p> <p>齋藤委員</p> <p>様々な意見を聞いて結論を出すというのは、時間はかかるかもしれないが、納得した答えを出すためには良いと思う。</p> <p>教育長</p> <p>今回の審議会には保護者の意見も必要ということから、保護者にも審議委員をお願いした。普通は審議会には該当者は入らない。中立の立場から判断できる人をお願いすることが多い。</p>
<p><b>日程第 4</b></p> <p><b>議事</b></p> <p>議案第 26 号</p> <p>教育委員会の事務に関する点検及び評価報告書について</p>	<p>総務課長</p> <p>議案書を基に説明する</p> <p>《質疑》</p> <p>前田委員</p> <p>意見や提言は誰に、どのような方に求めたのか。</p> <p>総務課長</p> <p>元公立小学校長と日本保健医療大学講師である。</p> <p>《採決》 全員賛成により原案どおり議決。</p>
<p>議案第 27 号</p> <p>平成 29 年度幸手市一般会計補正予算(第 3 号)</p> <p>教育費の要求について</p>	<p>教育次長</p> <p>議案書を基に説明する</p> <p>《質疑》</p> <p>中根職務代理者</p> <p>歳入の「英語教育強化推進事業委託金」について、内容を教えていただきたい。</p> <p>学校教育課長</p> <p>英語教育強化推進事業とは、文部科学省の外部専門機関と連携した英語指導力向上事業で、大学の教授等を招へいし、英語授業の指導力を高めるというものである。埼玉県が受けて、幸手市が採択されたということである。学校は小中連携ということで東地区の学校を予定している。</p>



<p><b>日程第 5</b> <b>行政報告</b> <b>1 教育長報告</b></p> <p><b>2 事務局からの 主要な報告</b></p>	<p>教育長 外部というのはどこからなのか。</p> <p>学校教育課長 埼玉大学からである。</p> <p>中根職務代理者 期待している。</p> <p>齋藤委員 ひばりヶ丘球場の音響がひどかったので、今回予算が計上されるとなると、とても良いと考える。</p> <p>教育長 完成はいつごろになるのか。</p> <p>スポーツ振興課長 議会で予算が議決されましたら、ひばりヶ丘球場は2月までクローズ期間になっているため、その期間中には修繕を終了させたいと考えている。</p> <p>教育長 1 各種教育長会議等 2 自己評価シート中間報告校長面接 3 講演等 について資料により説明する。</p> <p>学校教育課長 1 第53回幸手市小学校ロードレース大会 2 埼玉県中学校駅伝競走大会 3 平成30年度当初人事異動に関して校長ヒアリング 4 11月中旬から12月初旬の主な行事予定</p> <p>吉田幼稚園長 1 10月の行事 2 11月の行事予定 3 平成30年度園児募集について</p> <p>社会教育課主席主幹 1 第57回幸手市文化祭 2 平成29年度幸手市還暦式 3 平成29年度埼玉葛地区人権教育指導者研修会(埼玉葛地区人権教育推進協議会) 4 人権作文発表会(幸手市人権教育推進協議会)</p>
---	---

社会教育課主席主幹（公民館）

- 1 初心者向けお箏教室
- 2 公民館クラブ連絡協議会常任理事会
- 3 楽しい合唱入門講座
- 4 10月の利用状況

社会教育課主席主幹（図書館）

- 1 報告事項
- 2 利用状況
- 3 今後の事業予定
- 4 予約の多い図書
- 5 購入図書リスト

スポーツ振興課長

- 1 市民文化体育館主催事業
- 2 報告事項

について資料により説明する。

《質疑》

前田委員

学力向上推進プラン総合マネジメントについて資料があるが、もう少し説明いただきたい。

教育長

これは学校で学力の向上を推進するために、学校の組織的な取組や指導方法の工夫改善などに対して進めていくと4月に目標設定したものの中間報告である。1 ページ目のカラー刷りは各校長の自己評価で、2 ページ以降は各項目において、評価を上げた学校の顕著な取り組み事例を研究させていただくために、項目ごとにまとめたものである。

前田委員

グラフの a、b、c、d はそれぞれ何を表しているのか。

教育長

a は顕著によく進捗している、おおむね 80% 以上。b は様々な困難を伴いながらも進捗している、60% 以上だといえる。c が現在努力中ということでおおむね 50% 前後であり、d はそれ以下である。これらは自己申告である。

前田委員

ということは、d の学校は校長自らがそう評価しているということでしょうか。

教育長

そのとおりである。

	<p>前田委員 指導方法の工夫改善と学習習慣の確立の2つの項目において、dと評価しているのは同じ学校か。</p> <p>教育長 別の学校である。</p> <p>前田委員 現在dと評価している学校に関して、今後最低でもb以上にする方策はあるのか。</p> <p>教育長 努力するようにと指導している。今後どれだけやれるかによってくる。</p> <p>前田委員 個人的な考えだが、自己評価で最低を評価しているのはとても危険である。教育長はどのように考えているのか。</p> <p>教育長 校長がdと評価しているということは、校長自身が問題を意識しているということだと考える。そのため、今後に期待したい。</p> <p>前田委員 この後の結果はいつになるのか。</p> <p>教育長 3月に面談を行う予定になっている。今の評価がどうなるのか引続き見ていき、支援していきたい。</p> <p>満木委員 小学校においては、目覚ましい結果が出ている学校がある反面、中学校では残念な結果と思う学校があるが、それは、小学校の段階の児童がまだ中学校に入っていないからなのか、それとも、スマートフォンの影響なのか。教育長はどのように考えているか。</p> <p>教育長 個人的な意見としては、両方あると考える。幸手市の中学生はスマートフォンの使用割合が高い。また、中学校に入ると、家庭学習時間も減少しやすい傾向にある。課題は、小学校で伸ばした児童を、中学生でどれだけ伸ばしきれるかである。学校の指導力や家庭での過ごし方、保護者の協力等が課題である。</p> <p>前田委員 満木委員は近々について、教育長は個々について話されて</p>
--	---

	<p>いる。個人的な意見として、同じ地域で学力を比べた際、中学校に比べて、間違いなく小学校の方が成績は高くなる。小学校の優秀な子は私立中学校に行くため、どうしてもそのようなことは起きる。今の教育長の説明のように、個々を見れば、若干小中学校で変動はあるかもしれないが、小中の追いかけて調査はあるのか。</p> <p>教育長</p> <p>確かに優秀な子が私立に流れていっているというのは平均が上がらない要因の一つであるが、それが大きな要因であるとは言えない。市立中学校に進学した子をどれだけ伸ばすかが重要である。埼玉県学力調査で経年の変化は一部追える。</p> <p>満木委員</p> <p>中学生個人に関しては、中学校に入り解放されるという流れの中で、スマートフォンに多くの時間を費やす生徒が増えたのも学力低下の原因の一つだと考える。中学校においてはスマートフォンが脳にどのような影響を与えるのかというのを、主体的に学び、スマートフォンに対する意識づけを行う授業を行ってほしい。</p> <p>学校教育課長</p> <p>今年度行いたいと考えている。パンフレットの見直しを行ったり、生徒会を活用し子どもたちが主体的に学ぶようにしたりできればいいと考えている。</p>
<p><b>日程第4 その他 1 次回定例会の 日程について</b></p>	<p>各委員の意見を確認した結果、12月の定例会については、次のとおり決定する。</p> <p>第12回教育委員会定例会 日時 平成29年12月12日(火) 午前9時30分～ 場所 幸手市役所 第2庁舎 第1会議室</p> <p>なお、予定していた総合教育会議は市議会との関係から、1月16日の幸手中学校で開催される予定の定例会の前もしくは後に延期させていただく。</p>
<p><b>2 次回定例会協議 事項について</b></p>	<p>総務課長</p> <p>次回の協議事項は、引き続き、吉田幼稚園の今後の方向性</p>

**閉 会**  
午後 0 時 20 分

についてを予定したい。

教育長  
閉会を宣す。

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成29年12月12日</p> <p>教 育 長 山 西 実</p> <p>署名</p> <p>署 名 委 員 満 木 信 吉</p>